

会 議 要 旨

会議の名称		令和元年度第1回自転車のまちつくば推進委員会		
開催日時		令和元年7月18日 開会午後2時 閉会午後4時15分		
開催場所		つくば市役所5階 庁議室		
事務局（担当課）		都市計画部総合交通政策課		
出席者	委員	金委員、渡委員、掛井委員（代理：高橋様）、松橋委員、佐藤委員、松田委員（代理：中村様）、山田委員、葛山委員、國府田委員、森田委員、小田倉委員、小原委員、藤澤委員、藤倉委員、吉田委員、安藤委員、篠塚委員、上野委員、中根委員		
	その他			
	事務局	都市計画部次長中澤 総合交通政策課課長伊藤、課長補佐細谷、係長田村、主任倉持、主任渡辺、主任上田		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開	<input type="checkbox"/> 非公開	<input type="checkbox"/> 一部公開
傍聴者数		0人		
非公開の場合はその理由				
議題		(1)つくば市自転車安全利用促進計画アクションプラン施策の平成30年度進捗評価及び令和元年度の方針について (2)平成27年～30年度のアクションプラン施策及び実施メニュー中間評価 (3)アクションプランの見直しについて		
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員及び事務局紹介 3 委員長及び副委員長選任 4 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1)つくば市自転車安全利用促進計画アクションプラン施策の平成30年度進捗評価及び令和元年度の方針について (2)平成27年～30年度のアクションプラン施策及び実施メニュー中間評価 (3)アクションプランの見直しについて 5 情報提供 <ul style="list-style-type: none"> ・茨城県：いばらき自転車活用推進計画 6 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの概要及び調査票 ・議案への意見について 			

＜審議内容＞

1 役員選出

推薦により、金委員が継続して委員長に就任。委員長指名により渡委員が副委員長に就任。

○委員長挨拶

国の法律、県の計画が制定され、自転車のブームが到来している。つくば市においては、10年以上前から有志の皆さんで、自転車環境をどうするか議論してきた。震災前に委員会が立ち上がり、自分もそのときから入っている。つくば市こそ、自転車のまちとして先導を切っていくと思っていた

道路のネットワークもできていて、楽しいことができるだろうと考え、いろいろな交通手段が共存できると思っていた。これまで、アクションプランにもとづいてやってきた。今日は、その成果がどうなっているか、今後どうするかを検討する。皆さんと自転車を楽しめるまちつくばを検討していきたい。

2 議事

(1) アクションプラン施策のH30度進捗及び令和元年度方針について

●事務局から資料2及び資料2参考を説明

○委員長 資料2 P 4道路環境整備で、つくば駅周辺で自転車レーンが引かれているが、市民の皆さんには届いているか？また、自転車レーンにかかわる事故や通行帯走行の順守率は市で把握しているか？

●事務局 定点観測をしていないので、順守率はわからない。

○委員長 したほうがいい。来る時に見てきたが、子供が逆走している。警察関係でどうか。事故や順守率については情報をお持ちか。

○委員 街頭に出ている警察官が把握し、現場で注意しているがその統計はない。交通事故については、事故の大まかな発生地点はデータでもっている。数字的にはつくば市は県内平均よりも自転車事故は多い。東大通、南、北等大通りは事故が多いのが実情である。自転車レーン進行方向の順守率は把握していない。

○委員長 事故関係のデータを確保するのは重要である。自転車レーンを整備した効果としてペデから自転車レーンへの経路変更への効果あるのか？

●事務局 経路変化の実証はしていない。

○委員長 レーンの順守率は定点観測がよろしいかと思う。

○委員 高見原について、相当な数の小学生たちが道路を歩くが、通学路の歩道が狭い。ある交差点にオレンジのバーがたったが、逆に歩く場所がなくなったこともある。やる段階から地域の意見を聞いてもらいたい。地権者があって道路を広げるのが難しいことはわかっているが、とにかく歩道が狭く、子供が歩くのに危険だと認識している。

○委員長 整備をするときの進めかたとして地域の意見を聞いて、進めるべき

ということである。意見の対象となった道路の管理者はどこか。

●事務局 茨城県である。

○委員 車道を通行する自転車の運転については、高齢者がよたよた乗っていると危ないと感じる。

○委員長 小学生の通学路の問題はきわめて大事な意見である。周辺部の幹線は、歩道は狭く、車が多い。その歩道を自転車が通行すると歩行者が危険になる。子供の通学路を守ることは昨今言われている。このような状況に対し、県と警察のどのように考えるか？

○委員 県道の歩道整備については、通学路安全プログラムにもとづいて、国の補助金を活用し優先的に実施している。歩道整備については、地元の要望があれば随時対応したい。

○委員 自転車関連の交通事故は、中心部以外でも多い。荃崎は、自歩道は少なく、車道を通行する場所が多い。自転車は、障害があればそれを回避するために一時的に歩道にあがるということになる。自歩道の設置基準もあり、すべての道路で自歩道という訳にはいかないが、歩道が狭いところを自転車が多く走れば、歩行者が危ない。自歩道の規制は県や学校関係者と検討し、通行量も調査しながら決めている。

○委員長 子どもの通学環境もできていないのに自転車の通行環境の話はできない。交通モード同士のすみわけについても委員会で検討したい。

○委員 自転車が車道部をよたよた走るとは確かに危険だが、本来は自転車との安全な間隔を確保できない状況では、自動車が側方を通過する際に徐行しなくてはならない。一番優先されるべきは歩行者で、その次に自転車。自動車は安全が確保できて初めて走れるものであるという原則をもっと周知したほうが良い。

○委員長 自転車がよたよたして危ない場合は、それ以外の移動手段を用意すべきであろう。ルールを守って安全に走れない自転車には公道走行は難しい。対歩行者の問題もある。

○副委員長 道路を広げるとさらに自動車がスピードを出す点に留意しなければならない。海外では「子供がここでは遊ぶ」というサインがあり、自動車を抑制している。自動車への周知として、道路の着色やサイン表示等が有効なのではないか。通行する子供たちも黄色い帽子をかぶって、サインを出しているように、道路自体にもサイン等をだすなどが考えられる。自動車のマナー改善に向けて歩行者・自転車の優先を伝えるなど、つくばならでの伝え方の工夫があつていいのではないか。

さらには、警察署での運転免許更新時に、マナー周知チラシを警察と協力して免許更新者へ配布しても良いと思う。

○委員長 自動車のマナー啓発については、取組が薄いのではないか？

●事務局 現在のアクションプランでは、自動車向けの啓発は無い。

○委員長 ドライバーに対し自転車、歩行者への配慮への呼びかけが必要である。

(2) 平成 27 年度～30 年度のアクションプラン施策及び実施メニューの中間評価

○金委員長 資料 No. 3 最初の 2 ページ目で中学生、高校生向けの交通安全の施策が C 及び D になっているが、それでは困る。それから施策 3 及び 4 のコンソーシアムやサポーター認定については、自転車のまちつくばを作るときに、自転車にかかわる応援団をつくらないと進められないと考えていた。自転車を一生懸命やる街にはそういう人たちがいる。愛好家など、交通安全関係者などが横につながっている。行政だけでは啓発活動は間に合わないので、ぜひやっていただきたい。中学、高校の交通安全教育についてはいかがでしょうか。

○委員 具体的な件数はわからないが、交通安全教育や自転車の安全点検は各高校で実施している。安全教室では警察の方にも来て貰っている。この実施メニュー及び実績（施策 1 実施メニュー 4）にはそれが反映されていない。

●事務局 既に各高校で実施している交通安全教育はカウントせず、自転車のまちづくりを考えるとというような新しい講座を検討するというのが当実施メニューの位置づけである。

○委員 交通安全第一で学校はやっている。安全タスキ、ヘルメット着用を中学生で指導している。高校生向け講座の実施は市の主催か？

●事務局 市が主催する位置づけである。

○委員 そうであれば、各学校に相談していただければ検討できる。

○委員長 自転車レーンの利用方法やルールなどは各学校の交通安全教育に組み込まれ、高校生に伝わっているか？

○委員 該当する学校はしていると思うが、筑波高校の周辺では自転車レーンがないので組み込んではいない。

●事務局 高校生への講座については、アクションプランでは行政が主催してやっていこうと考え位置づけた。市内の中学校や高校が自主的に開いている安全教室について調査をしていって、実績値に反映していきたい。

○委員長 既存の交通安全教育において、NPO が実施していることはたくさんある。別々のものを統括して安全教育ということで進めていく仕組みをつくってもらいたい。市民公募委員やチーム 36 の皆さんは説明を聞いてどうか。

○委員 評価 D の施策が 3、4、10 であるが、施策 3、4 は実施メニューが 1 つだけしかなく、今後の取組（実施メニュー）を書き出さないといけない。

それから、安全教育等について、マナーの前に乗り方を知らない人が多いのではないかと。車にぶつかったら亡くなる、そんな基本的なことを子ども、成人にも叩き込まないといけない。

また、自転車が不安全な状況での上っている者が多い。自転車の修理を 1 年間やったことがあるが、その時に不安全な自転車が多かった印象。自分が考えて

いる運動として、子どもを育てている父母が、子どもの自転車を一緒に点検して、おかしいと感じたら修理してもらいたい。そういったところから保護者や子どもを教育しないと、リテラシーは身につかない。

- 委員長 貴重な意見が3点。地域での交通教育や自転車の安全点検を合わせていく必要は言ってきたが、それができれば、コンソーシアム(施策3)や応援団(施策2)になる。その辺も今後は手を入れていかないといけない。

(3) アクションプランの見直しについて

- 委員 施策の7及び8サイクリングを楽しむための環境について質問と意見がある。質問としては市で運営しているウェブサイトは、アクションプランには具体的に記載されているのか?アクションプラン策定時の経緯を知りたい。

- 事務局 ウェブサイト開設・運営といった具体的な実施メニューはないが、情報発信ということで市予算にて実施している。

- 委員 ウェブサイトについて「ちゃりさんぽ」という土浦市と桜川市、筑西、結城のサイトがあり、内容が重複していると感じる。「ちゃりさんぽ」も地図(グーグルマップ)に情報を落としているものだが、主体としてつくば市が入っていない。今後、下妻市及び常総市も入るという情報もある中で、県一体として取り組むことも大事ではないか。

もう一点は、施策8の広域レンタサイクルについてだが、市のレンタサイクルと、県のつくばセンターの広域レンタサイクルは別であり、返す場所も別になっている。市域を超えて協力してサイクリング事業を展開すべきではないか。市のレンタサイクルも県の広域レンタサイクルに入って、県内で乗り捨てできるようにすれば利便性が高まる。岩瀬や筑波山口も入れれば、距離も縮まってきて、観光振興にも寄与するのではないか。

- 事務局 「ちゃりさんぽ」については、今後、連携を図っていければと考えている。なお、つくば市のウェブサイトは、視点としては市内の情報、市民向けのイメージであるので、誘客の視点も交えた見直しの必要を認識している。

レンタサイクルは、市営(つくば駅及び筑波山口)と茨城県営の広域レンタサイクル(つくば駅)の2系統ある。市も県も筑波山口でのレンタサイクルは懸案事項であるが、県が中心となって筑波山口での広域レンタサイクルの新規実施を進めてくれている。アクションプランの中間見直しに入る中では、その整理をもう一回よく行いたい。経済部長にも入ってもらったが、自転車での誘客も重要なものであり、アクションプランにも入れていきたい。

- 委員長 観光誘客に関する利活用を考えていくということだが、基本は2本柱。交通規則の順守、そしてハード整備。これを欠いて健康やツーリズムなどの自転車利用を推進しても事故が起きて混乱するだけ。誘客に取り組む前に交通規則教育と自転車レーンの整備をしてもらいたい。

茨城県に動いてもらいたいこととしては、県立高校関係の教育がある。市は

小中学校はやれるといえるが、高校大学はやるという声がでてこない。茨城県では、県立高校への教育をどのように考えているか？また、県道について、自転車通行帯整備をどう考えているか教えていただきたい。

- 委員 教育の関係は県の自転車計画にも位置付けた。基本は委員長の言う通り、安全教育と交通環境の整備が基本である。ツーリズム、地域活性はやりたいが、前段の教育と交通環境整備が大事と考えている。

高校生の教育について、小中学校も含めて自転車の教育は、それぞれ学校地域それぞれの主体がしているが、各学校のカリキュラムで忙しい中で、国の指針の交通教育を実施している。

県としては、それぞれの主体、年代でどういった教育が必要か整理し、県の教育指針のようなものを世代ごとに明示した。時代に合っているか、毎年レビューできるようにしたい。高校生もスケアードストレート型交通安全教育をしているが、それが教育として高校生に役立っているか検証しながら、自分事として自転車の乗り方、ルールを学べる機会を作っていこうということで今動き出した状態である。

- 委員 道路整備は道路構造令に基づき、都市部・周辺部で規格がある。幅員が広いところの植樹帯は、昨今の自転車の利活用の動きを踏まえ、従前の幅員で歩行者と自転車を分ける動きがある。なお、いばらき自転車利用推進計画に、具体的な整備方法等を明記している。

- 委員長 交通教育については県の指針をみてやってもらうということだが、交通教育の仕方については、座学より走る現場、現地指導を具体的に教える形が主流になっている。また、「他人への配慮」を教育する対象が、中学生から小学生となっている。更には、幼児から自転車に慣れ親しませるという取組もある。自転車は子どもを育てるツールであり、認知、判断力など子どもにプラス要素がたくさんある。このような世代別教育は京都が進んでいるので参考にしてほしい。

- 委員 今回の件で、市のHPで勉強させてもらった。きわめて総合的な観点から検討している素晴らしい施策と考えている。これが総花的な施策になっては困る。どこに機軸を置き、成果として何を目指すか明らかにしていくことが大切である。

「自転車のまち」は日本においてどこか？というと、ひとつは「大阪府堺市」自転車生産のまちであり、サイクルスポーツセンター非常に市民との距離が近い。次に、「今治市」しまなみ街道の完成で、まちおこしに役立てようと、市が独自の部局を設けている。また、全高校生にヘルメット無償配布等し、安全運動をおこなっている。

そのほかは各所でいろいろあるが、例えば「松江」では免許返納と同時に、電動アシスト自転車の購入補助をするなど、それぞれの市で特色をだそうとしている。

自転車のまちつくばが目指す成果は、「教育」に尽きるのではないか。教育については、実は学校教育のカリキュラムの中に位置づけられておらず「教科外教育」になる。教育のまちでもつくばはあるので、自転車に絡めてアピールの一つの材料になるのではないか。

もうひとつ欠けているのは、障害者への交通安全教育がないこと。県の仕事で、水戸の聾学校でスケアードストレートをやった。業者に、障害者への経験を聞いたら、ないとのこと。聴覚障害について工夫はと聞くと、手話通訳をたてるのでいつもどおりと聞いた。現場では、手話通訳者が頑張ったが、聴覚障害の子どもが手話をみていると、見なければならぬものが観れていない。また、障害の事例別、障害別の教育がされていない、

これからは高齢者も教育の対象として、交通安全教育をやっていかないといけない。

また、教育については、交通法規の理解が大事。解釈が難しい法規であるが、身近なものでもある。その説明もあっていいのでは。

委員長も共存、折り合いという発言もあった。共存共生ということもある。共生は、お互いが自立できる関係を気づくこと。ハードでは自転車レーン。駅を見ていて、逆走と、不法駐車が台無しにしている。警察も知恵を出していただけるといい。つくばセンター周辺、駐車も禁止、交通指導員がいればいいが、停車禁止も守られていない。教育が大事。次の世代を見ながら明日が見えるまちつくばを目指してもらいたい。

- 委員長 交通教育は関西で進んでいるので、情報を収集するといいいでしょう。私からひとつ。ハードの自転車通行帯の整備について、タイプ別の整備計画を作ったほうがいい。現行のアクションプランでは整備のフローチャートだけなので、今後のアクションプランでは自転車専用レーンか混在か、タイプ別の計画を作ってほしい。
- 委員 施策2、自転車ヘルメットの推進事業がある。今後でもいいが、進んでいるか教えてほしい。
- 事務局 こちらの施策があまり進んでいないという事情は感じている。しかし、検討を進めている取組があり、次回の委員会で概要をお示ししたい。
- 委員 自転車のヘルメット着用を推進する施策の対象は、大人も含んでいるということか理解してよいか？
- 事務局 おっしゃるとおり、大人を含んだ市民全体が対象である。
- 委員 施策3のコンソーシアムについてだが、関係者と協働し、道路のデザインやサインをもっと推進した方がいい。ここはどう走ったらいいかというサインは重要である。コンソーシアムは既存交通安全協会等の団体・目的と重複しているとの記述であるが、道路管理者や警察や副委員長などとの協力・連携することで安全協会では足りない部分を埋めるように、つくば市らしいサインを検討することができ、それがコンソーシアムの有効な活用の一つになる

のではと考える。

次に、「横断歩道があります」の標識が青だと守る気にならない。それを黄色くするなどの取組が必要。研究学園駅周辺で、ひき逃げ死亡事故があった所は、歩道を黄色く塗るなど努力をしている。

さらには、施策の 11 に関連するが、市のウェブサイトオープンデータを置いておくことで、他に自転車利用を促進するウェブサイトを創設しやすくなる点にも留意するとよい。

また、MaaS として鉄道とサイクルシェアリングを組み合わせるのも手である。レンタサイクルの台数を見ていると、まだ需要は足りていないと思われるものの、サイクルシェアリングはあった方がいい。

○委員長 Maas の動きはどうか？

●事務局 自転車を意識した Maas は意識していなかったが、それ以外の部分では検討している部分もある。

○副委員長 2年間で、いろいろな国県市の取り組みが、総合的に見れるようになるべきだと感じる。松橋委員の意見にもあったオープンリソースを作ったほうがいい点に賛成である。イノベーション、企業力、健康教育にもつながる、つくばの地域ブランディングのひとつとして検討してはどうか。